

令和3年度 江戸川区立宇喜田小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ子 やさしい子 元気な子 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 児童の日々の生活に、教育目標が目に見える姿として表れる学校 健やかな体、確かな学力、豊かな心、地域を誇りに思う学校 使命感と責任感をもち協働、研鑽し教育力を高め合う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・新型コロナウイルス感染症対策をしながら、限られた時間の中で校内研究を行い、指導力を高めることができた。 <課題> ・昨年度、例年通りの学習や行事ができず、組織的な地域と関係した取り組みが薄くなっている面がある。 ・今年度から導入された学習用タブレットを活用した授業を行う指導力が必要である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間における個で考える時間の設定 補習時間(朝補習・放課後)の確保 各教科等の連携教育プログラムの取組 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容がよくわかる(児童アンケート 肯定的回答80%) 学期末まとめワークテスト平均(国算理社)(80%) 東京ベネシクドリル診断テスト合格(80%) 教員へのアンケート「小中連携教育プログラムの周知徹底と修正」(教員アンケート 到達度70%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容がよくわかる(児童アンケート 肯定的回答96%) 保護者回答(88%) ベネシクドリル診断テストの結果、正答率80%は概ね達成できた。 計画した朝学習、放課後補習に取り組むことができた。 令和3年度の学力テスト結果は国語、算数とも全国平均を上回ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も全国の平均、都の平均を超えられるよう期待している。 すくすくスクールでもすぐに宿題に取り組む児童が多い。 宿題の取組は100%を目指して家庭の協力も得ながら指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の東京ベネシクドリル診断テストの結果をもとに定着させずらい単元の補習計画を立て、指導する。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) 学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を使用した調べ学習の実施 各学年年間指導計画に基づく探究的な学習の設定 計画的な読書ノートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で読書科ノートを活用した学習の実施(教員アンケート80%) 学校図書館での調べ学習に取り組んだ。(児童アンケート 肯定的回答80%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 調べ、まとめる学習が楽しい児童アンケート回答(93%) 「児童は図書を活用した学習に意欲的に取り組んでいる」(保護者アンケート回答72%) 図書ボランティアの方と連携し、通書を行い、図書館の団体貸し出しを再開することができた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 便利になり、すぐに知りたいことをインターネット環境で調べられるようになったが、本から知識を得て、学ぶということが考え、想像する力になると思う。力を入れて取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考ツールを活用した調べ学習に取り組む教科横断的な年間計画を立て実施する。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間における運動量の確保 鉄棒、持久走、縄跳びなど運動遊びの充実 25分休みでの外遊びの推奨 	<ul style="list-style-type: none"> すすんで体育を学んでいる(児童アンケート 肯定的回答80%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 中休み以外遊びをする児童、見守る教員が確実に増えた。 すすんで体育を学んでいる(児童アンケート 肯定的回答89%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びをしている子供たちをよく見かける。体力向上の取組を継続して行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒、持久走、縄跳びなどの取組に対し、感染症対策を考え、実施する。
	オリパラ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年でオリパラ学習(調べ学習、スポーツ体験など)を計画し実施 各学年活動報告のための掲示板活用(全学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年での取組(100%) 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> オリンピック、パラリンピック実施後のまとめを考えていた。計画を修正した具体的な取組を実施できなかった。計画を見直し、実施する必要がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> バラスポーツは区に指導員がいるので、指導してもらい機会をつくと子供たちも親しみをもてるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボッチャを体験する計画を立て、バラスポーツに親しむ機会を設定する。
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上とALTの効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ALTとの打合せと外国語教育に必要な教材の整備・開発 指導力向上のための教員研修 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を楽しく活用・実践できる(児童アンケート 肯定的回答80%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「外国語」「外国語活動」の授業が楽しいと回答している児童80% 各学級の指導の仕方に違いがあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子供は身につくのが早いので、外国語でコミュニケーションがとれるようにすることを目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員から各学年で、ALTとの打合せ内容を伝え、授業改善する。
	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関するアンケート、授業年3回 配慮児童の保護者との面談実施 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題解決(100%) 配慮児童との保護者面談(100%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケート結果の教員複数での聞き取り、指導を行い、現段階ではいじめに関する問題は解決している。 夏季休業中に保護者面談を計画的に実施することができた。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 実感がわからないと答えずらい面がある。本人がいじめられたと思うものはいじめになる。自分のしていることがいじめになるという認識を子供たちがもてるようにならないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの継続実施。改善に向け、早期対応する。
			<ul style="list-style-type: none"> 毎週の夕会における情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の組織的対応、対策委員会の定期的開催 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童の状況改善(100%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有を図ることはできている。しかし、改善につながらないケースもある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携の大切さを感じる。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個別に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の特別支援の情報共有・支援の検討 月1回の校内委員会、ケース会議、研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮、支援を要する児童の把握(100%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に特別支援に関する研修会を実施し、個への支援の理解を深めることができた。 個に応じた対応をしているがなかなか改善につながらないケースもある。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 自分中心の考え方をする子供が増えているように感じる。いろいろなケースがあり、評価はしやすい面がある。引き続き子に応じた指導をすすめてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織で対応するための体制を整える。
		<ul style="list-style-type: none"> エンカレッジルームの活用促進 副籍交流、交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、外部機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮児童への支援(100%) 特別支援教育の取組の認知度(保護者)(80%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特別支援教育についての取組をご存じですか(保護者回答68%) エンカレッジルームを活用した児童への支援体制を組んだ。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 対応が難しい面もあると思うが、学校だけでなく家庭や地域、外部機関と連携して対応に当たってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問、面接、S・C、外部機関との連携を継続して行う。 配慮児童の保護者との面談を随時実施する。
教員の資質向上	教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 	<ul style="list-style-type: none"> ラインズによる校内研修(授業支援)年5回 校内プロジェクトチームによる研修会の実施年間5回 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットを活用した授業の実施。(全授業中70%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内プロジェクトチームによる研修会を4回実施し、学習用タブレットの活用が広がった。 プロジェクトチームを中心に授業の活用実践例を増やすことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> モラルやマナーの指導にも力を入れてやってほしい。 どう子供たちに指導していくのか家庭とも共有していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチームを中心に授業を活用実践例を増やす。
	教員の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の授業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を核にしたグループごとのOJT授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 目指す児童の達成(児童アンケート)(70%) 教員アンケート(70%) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会を6回実施。 OJTも含めた指導案の作成、授業計画を作成することができた。 児童アンケート回答結果(65%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大変だと思うが、子どもたちのために授業ができるよう頑張してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究、OJTで学んだ指導方法を他の指導に生かし授業改善につなげられるようにする。
特色ある教育の展開	地域連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 保護者・地域・外部の教育資源を取り入れた教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症対策を踏まえた学年単位での学期1回の取組(オンライン体験を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的学びや交流の楽しさを感じる児童(児童アンケート80%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 体験的学びや交流の楽しさを感じる児童(児童アンケート77%) 外部講師を招いての学習を実施することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会の行事などを少しずつ再開していきたい。 密にならないやり方を考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者ボランティア、外部との連携した学習を意図的、計画的に行う。
	学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習による学習習慣の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年での自学ノートの取組 	<ul style="list-style-type: none"> 自学ノートの取組(100%) 	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で取り組むことができた。 児童アンケート「自学ノートにすすんで取り組んでいる」と回答している児童6.4% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自分から学習姿勢をもった子どもを育てたいという指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレットを活用した調べ学習などを自学ノートにまとめる学習を推進する。